



夏をつないで

校長 木内 絵美

今年の夏休みは、各地で自然災害の不安が続く日々となりました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く穏やかな生活が戻りますことをお祈りいたします。

長い夏休みが終わり、学校には子どもたちの元気な声が戻ってきました。この夏休み中、子どもたちはスポーツに汗を流したり、海や山などの自然に親しんだり、地域のお祭りや行事に参加したり、それぞれに様々な体験を通して、多くの発見や学びを得たことと思います。

以前、担任をしていた頃、6年生が「自分の得意になったことや興味をもったことは、ほとんど遊びから始まっているよ。」と話してくれたことがありました。虫取りに夢中になっているうちに生き物に詳しくなったり、工作遊びを楽しむ中でもものづくりへの関心が育ったりすることがあります。子どもたちは、「おもしろそうだな」「やってみたいな」という気持ちから様々なことに挑戦し、その中で自分の可能性を広げていきます。本やインターネットから知識を得ることも大切ですが、実際にやってみなければ分からないこともたくさんあります。机上の学習だけでは得られない学びが、遊びや体験の中には数多く存在するのでしょうか。

遊びや体験には、人生に役立つ学びもたくさん含まれています。うまくいく方法を考えて繰り返し工夫すること、失敗を恐れずに挑戦すること、状況に応じて判断することや時には我慢すること、仲間と協力することなど、子どもたちは遊びや体験を通して、生きていく上で大切な力も少しずつ身に付けていくのだと思います。

さらに、遊びや体験には、子どもたちの中から自然と「やる気」を引き出す力があります。「なぜだろう」「もっと知りたい」「おもしろいから続けてみたい」という意欲が生まれるのです。実際に見て、触れて、聞いて、感じる体験は、子どもたちの心を動かし、学びへの原動力となります。五感を通して得た感動や驚きは、学習への意欲を高める大切な「やる気スイッチ」になるのです。

本校では、昨年度に続き、「生活科・総合的な学習の時間」の研究を通して、「ひと」「もの」「こと」との関わりの中で、自分の学びを深め、自分らしく表現できる力の育成を目指しています。子どもたちが、体験的な活動の中から課題を見つけ、自ら考え、学びを深めていく教育活動を積極的に進めています。夏休み明け、各学級で、子どもたちが「やってみたい」「もっと知りたい」という気持ちを大切にして、新たな挑戦が展開されていくことでしょう。体験を通して得られた気付きや感動が、子どもたち一人ひとりの主体的な学びへとつながることを願っています。